

ボローニャ・プロセスまでの流れ

	主要事項	教育関係概説
<i>第二次大戦後、平和なヨーロッパを求める声が高まる</i>		
1949年	欧州会議設立	「文化、教育、科学の分野で、自由な民主主義(非共産主義) 諸国の協力を奨励する超国家機関」
1952年	欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC) 設立	この時点では経済統合を主眼にしていたため、教育への言及は経済・共同市場関連のみであった
1958年	欧州経済共同体 (EEC) ・欧州原子力共同体 (Euratom) 設立	
1967年	ECSC、EEC、Euratom が一本化 → EC 設立	
<i>経済的な重要性から、EC の活動を教育にも広げる必要性が認識される</i>		
1973年	教育・研究・学術総局 (DG XII) 設置	経済面以外での EC の教育プログラム
1976年	ジョイント・スタディー・プログラム開始	最長1年の学生・教員交流プログラムへの助成金、移動する学生への補助
1979年	「ヨーロッパ地域の高等教育に関する学修、卒業証書および学位の承認に関する協定」	国家当局に対し、学修・卒業証書・資格の承認をより柔軟に行うための対応を勧める
1986年	単一欧州議定書採択	国境のない領域実現を具体化させ、ERASMUS に影響
1987年	ERASMUS プログラム発足	欧州域内での大学生の短期交換留学プログラム
1988年	大学大憲章署名	ヨーロッパ各国の大学学長が署名。ヨーロッパの大学間の協力・使命に関する協定
<i>教育に関しても EU の主導が強まる</i>		
1992年	マーストリヒト条約調印	超国家機関として初めて、教育に関する権限を主張(ただし、各国の主権を侵さずにヨーロッパ教育の質を向上させるのが主眼)
1993年	EU 発足	

	主要事項	教育関係概説
1995年	SOCRATES、LEONARD DA VINCI 両プログラム開始	それまでバラバラだった教育プログラムを「普通・高等教育」「職業訓練教育」の2つへ統合
1997年	「ヨーロッパ地域の高等教育に関する資格の承認に関する協定」(リスボン協定)	1979年の協定よりさらに強く研究・終了証書・学位の相互認識を求める
ヨーロッパとして教育システムを「収斂」させる動き		
1998年	ソルボンヌ宣言採択	ヨーロッパ高等教育システムの調和を目的に、英・独・仏・伊の教育担当大臣により採択
1999年	ボローニャ宣言採択	

年号網かけ＝教育関連

赤マーカー＝欧州会議関連

黄マーカー＝EC・EU 関連

参照：

ウルリッヒ・タイヒラー 「ヨーロッパにおける学位の相互承認と単位互換 —経験と課題—」

[http://svrrd2.niad.ac.jp/journal/journal\\_no17/teichler.pdf](http://svrrd2.niad.ac.jp/journal/journal_no17/teichler.pdf)

ウルリッヒ・タイヒラー 「ヨーロッパ高等教育圏」に向けての収斂と多様性」

[http://www.niad.ac.jp/english/facurity/no02\\_1.pdf](http://www.niad.ac.jp/english/facurity/no02_1.pdf)

木戸裕 「ヨーロッパの高等教育改革 ボローニャ・プロセスを中心にして」

[http://www.ndl.go.jp/jp/data/publication/refer/200511\\_658/065804.pdf](http://www.ndl.go.jp/jp/data/publication/refer/200511_658/065804.pdf)

国際交流基金 『ヨーロッパにおける日本語教育事情と Common European Framework of Reference for Languages』

[http://www.jpfi.go.jp/j/japan\\_j/publish/euro/](http://www.jpfi.go.jp/j/japan_j/publish/euro/)

吉川 裕美子 「ヨーロッパ統合と高等教育政策 —エラスムス・プログラムからボローニャ・プロセスへ—」

[http://svrrd2.niad.ac.jp/journal/journal\\_no17/yoshikawa.pdf](http://svrrd2.niad.ac.jp/journal/journal_no17/yoshikawa.pdf)